



## 「個々の力の向上」

所長 大舘 利章

### 1 はじめに

8月に開催されたリオデジャネイロオリンピックでは、日本人選手の活躍に心から感動しました。特に、女子レスリング、バドミントン女子ダブルスなど、敗北が決定的な状況に追い込まれながらも見事な逆転で金メダルに輝いたことは「諦めないこと」、「自分の努力を最後まで信じること」の大切さを痛感させてくれました。各学校でも、このことについて児童生徒と話し合われた先生方もいるのではないかと思います。児童生徒には、このことで何かを感じてほしいと願うと同時に、教員の皆様方にも御自身の弛まぬ努力を信じ、今後の児童生徒の成長のため、粘り強い指導を心からお願いいたします。

### 2 向上心

昨年12月に中教審が出した3つの答申の中の1つに「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」があります。その中では、教員の資質能力の向上は我が国の最重要課題であり、教員一人一人がスキルアップを図ることが重要であるとされています。また、これからの時代の教員に求められる資質能力について、「自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていく力」、「アクティブ・ラーニングの視点による授業改善や小学校からの外国語教育、道徳教育の教科化、インクルーシブ教育への対応など新たな課題に対応する力」などが必要であると、行政機関や大学は、教員の養成・採用・研修の一体改革を推進するべきとしています。

私自身は、その優れた個々の能力を組織として活かしていく仕組みをしっかりと確立させることが、さらに重要なことだと思っているわけですが、いずれにしても、一人一人の資質能力の向上は、組織にとっても非常に大きな力となることは疑いのない事実であります。

オリンピック選手は「自分の目標」に向かい、真剣で妥協のない「練習」に取り組み、自分の能力を高めて結果を残しました。教員においても、「実践」はもとより国レベルから校内研修まで幅広く実施されている「研修」などに真剣に取り組み、まずは「自分のため」という自覚と意欲をもち、御自身の資質能力の向上を図っていただきたいと思えます。また、研修で得た知識や技能を同僚と共有することも、御自身の能力向上に繋がることは申すまでもありません。月並みの言葉ではありますが、誰もが常に「向上心」をもち続けること、そして、目標を達成するという強い気持ちをもつことが、必ずや自分の能力向上、ひいては組織の力に繋がると思えます。向上心をもち、御自身のレベルアップを図っていただくことを切に願っています。

### 3 最後に

県内で生徒が自ら命を絶つ事案が発生しましたが、各学校におかれましては、児童生徒の命を守る取り組みについて今一度確認していただき、児童生徒一人一人の情報について保護者と共有するなど、最善の対応をしていただきますようお願いいたします。

# 学校課題解決に向けて取組と確認を

教育課長 葛野 一彦

今年度も、各市町村教育委員会並びに各小・中学校の協力を得て、郡内12校、市内22校（同行訪問）実施させていただきました。各校におかれましては、訪問要項の作成、学校要覧の提出、学校経営等の話合いや授業参観に御協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

さて、下北教育事務所管内の学校教育の課題の中から「**確かな学力の向上**」「**豊かでたくましい心の育成**」「**健やかな体の育成**」にしばり、すでに課題解決に取り組んでいると思われませんが、確認していきたいと思えます。

## 1 「確かな学力の向上」

- ①知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を育成する授業改善に努める。
- ②目的を明確にした言語活動を充実させ、児童生徒の実態に応じた学習指導の工夫や個に応じた指導の工夫を進める。
- ③学習状況を踏まえて具体的な改善策を実践し、結果について検証するといった授業改善を進めていく。
- ④「分かる授業」の実現をとおり、学ぶ意欲の向上と主体的に学ぶ態度の育成に努める。
- ⑤学習意欲の向上と学習習慣の確立を図る。
- ⑥諸学力状況調査の分析による多面的な実態把握に努める。

## 2 「豊かでたくましい心の育成」

- ①道徳教育推進教師を中心とした組織的な取組と校内体制を確立する。
- ②道徳教育の要となる道徳の時間において、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度を育てる指導を充実させる。
- ③生徒指導上の諸問題に対応する組織的な生徒指導体制を確立し、その機能を十分活用する。
- ④自己指導能力の育成や規範意識の醸成を図る。
- ⑤多様なコミュニケーション能力を高める取組を、各学校の特色を生かしながら充実させる。

## 3 「健やかな体の育成」

- ①食育計画の実効性を高めるための見直しと、指導の継続に努めるとともに、家庭や地域社会と連携した生活改善に努める。
- ②「栄養、運動、休養・睡眠」の調和のとれた生活習慣の確立や自己管理能力の育成を図る。
- ③運動の楽しさを味わわせるための教科体育の充実と体育的行事の工夫を進めるとともに、新体力テストなどによる実態把握を通して、自校の取組の改善を図る。

平成28年度も、折り返しを迎えます。児童生徒が安心安全に、そして、児童生徒と先生方が楽しく学校生活を送れますよう、取組については、不断の確認を十分にお願いたします。



## 理科における「主体的・対話的で深い学び」 (次期学習指導要領改訂に向けて)

指導主事 岸 健一郎

次期学習指導要領の改訂に向けて、各教科等における審議のとりまとめ（報告）が出されました。その中で、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点から学習過程を更に質的に改善していくことの必要性が述べられ、理科における学びについて、以下のように具体的に示されています。

### 「主体的な学び」について

例えば・・・

- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題や仮説の設定や観察・実験の計画を立案したりする学習場面を設けること。
- 観察・実験の結果を分析・解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりする学習場面を設けること。
- 得られた知識や技能を基に、次の課題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を把握したりする学習場面を設けること。 など

### 「対話的な学び」について

例えば・・・

- 課題の設定や検証計画の立案、観察・実験の結果の処理、考察・推論する場面などでは、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習場面を設けること。 など

### 「深い学び」について

- ・自然の事物・現象について、「理科の見方・考え方」を働かせて、探究の過程を通して学ぶことにより、資質・能力を獲得するとともに、「見方・考え方」も成長するものであると考えられる。さらに、獲得した資質・能力や成長した見方・考え方を次の学習や日常生活などにおける問題発見・解決に活用することによって、「深い学び」につながると考えられる。

例えば・・・

- 観察・実験などの学習の過程を振り返って変容を自覚したり表現したりする学習場面を必要に応じて設けること。 など

理科ワーキンググループにおける審議のとりまとめについて（報告）（平成28年8月）より

下北管内においては、昨年10月6日（火）（会場 むつ市立第一田名部小学校）と11月13日（金）（会場 むつ市立田名部中学校）に、文部科学省委託事業「理科の観察・実験指導等に関する研究協議会」が開催されました。

その中で、小学校の授業者である中村月美教諭は、実感を伴った理解にするために観察・実験等の活動を多くしたり、主体的に学べるようにてこを利用したものを多く準備したりするなどの工夫を行っていました。中学校の授業者である小島一玄教諭は、教えることと考えさせることを明確にすることで生徒が得られた知識・技能を活用して意欲的に観察・実験できるような授業を行っていました。

また、早稲田大学 露木和男先生の講義では、前提→矛盾→再構成の流れによる授業構築や「地球史」を視野に入れた理科の授業を紹介していただきました。教師が、どのように働きかけることで主体的な学習につながっていくか等について多くの教示がありました。



露木先生の講義の一場面

以上から、教育に関する今後の動向を確実に把握し、児童生徒の実態に合わせ、先を見通した実践が重要であることを改めて痛感しております。

# 複式学級担任者研修会を終えて

指導主事 伊藤 慎

今年度の複式学級担任者研修会を、6月23日（木）、大間町立奥戸小学校で開催いたしました。研修会では、研修主任の熊谷真理子先生から、研究の概要や経過について説明していただき、その後、皆川洋介先生、柏谷翼先生から、第4・5学年の国語科学年別指導の授業を提案していただきました。提案授業から、学年別指導を成功させるための工夫をたくさん示していただきました。その中から、3点紹介したいと思います。



提案授業の様子

## ガイド学習で間接指導を充実させる

「教科書に書き込みましょう。時間は5分です。」  
ガイド（学習リーダー）が元気よく指示を出していました。間接指導時、先生がついていなくても自分達で学習を進められるようにすることが大切です。提案授業では、次のような配慮がありました。

- ・児童の実態に合った無理のない進行計画にする。
- ・学習の進め方をリーダーだけでなく、全員に理解させ、周りの児童がリーダーに協力する体制をつくる。
- ・活動時間を示すとともに、早く終わった時の指示をする。

## 交流する目的や必然性をもたせる

5年生は一人調べが終わると、小グループになり、自主的に話し合いを始めていました。司会を中心に、調べたことや考えたことを発表し合い、活発に交流している姿が印象的でした。間接指導時、児童だけで交流し合うことができるようにするためには、「友達と交流する目的」「友達の意見を聞く必然性」をもたせることも大切です。提案授業から、奥戸小学校が校内研修で取り組んでいる研究の成果を見ることができました。

## T2による間接指導の支援

T2（柏谷先生）が、間接指導となっている学年の支援にあたっていました。2人の先生がいることから、「単式化できるのではないか。」という意見もあると思いますが、奥戸小学校では「複式での学び方を身に付けることが重要である。」という考えのもと、このような形態がとられました。今年初めて複式となった本学級において、T2の存在は大きく、担任も安心して直接指導にあたることができるとのことでした。

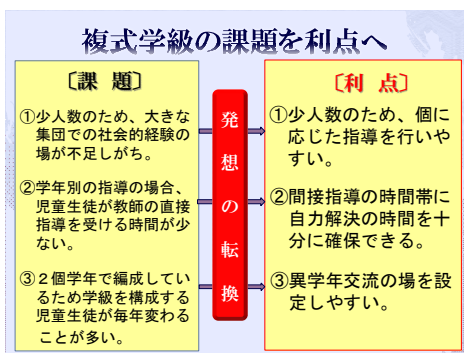
以上3点紹介しました。参加者から、「計画通りきっちり進められ、ねらいを達成できていたことに感動しました。」「普段のしつけや学習の約束がしっかりなされていることに感心しました。」など、素晴らしかったという声がたくさん聞かれました。

提案授業と研究協議の後、複式学級の指導について講義をさせていただきました。

## 複式学級の特性を生かす

講義で伝えたかったことは、「複式学級の特性を生かす」ということです。確かに複式学級には、「少人数のため社会性が育ちにくい」「教師から直接指導を受ける時間が少ない」などの課題がありますが、視点を変えると、それを利点として捉えることができます。奥戸小学校においても、複式学年別指導の課題を利点に変えて、自分で課題に取り組もうとする主体性を育てていました。

「弱みを強みへ」「短所を長所へ」「ピンチをチャンスへ」視点を変えて捉えることは、生徒指導や学級経営などにも広く当てはまるのではないのでしょうか。



6月23日の講義資料から

本研修会の参加対象は、複式学級新担当教員及び参加希望者としています。例年、単式学級を担当する先生方や中学校の先生方にも参加していただき、「勉強になった。」「刺激になった。」などの感想をいただいています。また、上北教育事務所で行っている複式学級担任者研修会についても各校へ案内をお届けし、下北からも参加していただいています。来年度、機会がありましたら、ぜひ参加していただければと思います。

# 生徒指導及び英語教育に係る重点事業について

指導主事 長内 人志

今年度、私が担当させていただいている青森県教育委員会の2つの重点事業について説明いたします。

## 1 「思いやりを育む安心できる学校づくり実践研究事業」（1年目）について

今年度から2年間にわたり「児童生徒のいじめをはじめとする、暴力行為、不登校等の生徒指導上の課題解決に向けて教育活動全体を通じて豊かな心を育み、児童生徒一人一人が輝ける居場所づくりや他の人との絆づくりを図り、児童生徒が安心して生活できる学校づくりに向けた取組について実践研究を実施し、県内へ普及すること」を目的として、当事業を実施しております。

### (1) 下北管内の研究指定校

むつ市立第三田名部小学校、東通村立東通中学校

### (2) 研究指定校における主な取組

- 児童生徒の実態把握のための教育心理検査（アセス）の実施
- 実態を踏まえながら、教員の資質向上を目指しての実践研究
- 中央の講師や地域人材を外部講師とする校内研修の実施
- 連絡会議・研修会への参加 ○先進校視察 ○講習会、研究発表会の実施

今年度は9月16日（金）に行われました「思いやりを育む安心できる学校づくり実践研究事業講習会」において、各研究指定校から取組内容の発表をしていただきました。

来年度は本事業の最終年度として、各研究指定校において研究発表会を予定しております。是非、御参加ください。

## 2 「楽しんで磨く英語力ポリッシュアップ事業」（2年目）について

今年度は以下のことに取り組んでおります。

### (1) 中核教員研修等の実施

#### ①英語教育推進リーダー研修（中央研修）

むつ市立第三田名部小学校の阿部絹枝先生が平成28年5月30日からの5日間と10月17日からの5日間（計10日間）で行われる当研修に参加します。

#### ②中核教員研修

英語教育推進リーダー研修修了者となる阿部絹枝先生を講師として、平成28年12月26日、27日、平成29年1月6日の3日間で下北管内の小学校外国語活動担当教員（30名程度）に対して中核教員研修を実施します。3日目の研修では、文部科学省の直山木綿子教科調査官による講演を予定しています。

#### ③外部専門機関連携研修（中学校英語担当教員対象）

平成28年7月27日（下北から3名参加）と平成29年1月10日（下北から3名参加予定）に青森県総合学校教育センターで行います。内容は「英語トレーニングの指導法」、「TOEIC I Pテスト受験」、「中高連携による英語教育の推進」となります。

### (2) イングリッシュキャンプの開催

今年度は8月15日から17日までの3日間で行われました。青森県総合学校教育センターで主に活動し、2日目には三沢米軍基地内の訪問をしました。

活動内容としては、「自己紹介、ALTとのゲーム、三沢米軍基地内職場でのインタビュー、英語劇作成及び発表、スピーチ」など、生徒にとって盛りだくさんでありましたが、ALTや米軍基地の方々と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度は大変立派でした。

県内中学1、2学年の生徒60名が参加したわけですが、下北管内からは5名の生徒（むつ中学校2名、近川中学校1名、川内中学校1名、大間中学校1名）の参加でした。

参加した生徒の皆さんは、体調を崩すことなく、最後まで明るく、元気に、楽しく過ごしていました。そのような生徒の皆さんから、私自身パワーをたくさん分けていただいていた帰ってきたような気がします。生徒と触れ合い、共に活動できた3日間に感謝いたしております。

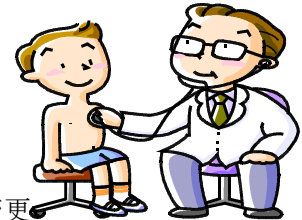
# 新しい児童生徒の健康診断について

指導主事 田中 健一

今年度から学校保健安全法施行規則の一部改正により、児童生徒の健康診断における検査項目が変更になりました。学校現場では健康診断及び事後措置等が適切かつ円滑に実施されるよう、様々な面で御留意されていることが多いかと思えます。以下、その概要について確認します。

○児童生徒の健康診断に係る改正（平成28年4月1日施行）

- ①座高：必須項目から削除
- ②寄生虫卵の有無：必須項目から削除
- ③四肢の状態：必須項目に追加
- ④保健調査の実施：「小学校入学時及び必要と認められるとき」から、「小・中・高・高等専門学校においては全学年 幼稚園・大学においては必要と認めるとき」に変更



## ①なぜ、座高が必須項目から削除？

1935年頃は内臓が発達していれば健康だと思われ、座高が高ければ内臓が発達していると言われていました。そのため、1937（昭和12年）年に学校での身体計測がはじまってからこれまで続いてきました。しかし、児童生徒等の発達を評価する上で、肥満や痩身、低身長などは身長と体重の測定結果をもとにした成長曲線の変化を見ればわかるということから、座高については、検査の必須項目から削除することになりました。

## ②なぜ、寄生虫卵の有無が必須項目から削除？

寄生虫卵の検査の検出率は極めて低く、ここ10年間、1%以下で推移し、手洗いや清潔の保持という基本的な衛生教育を引き続き徹底すれば、検査を省略してもよいと考えられることからです。

## ③なぜ、四肢の状態は追加？

まっすぐ立ってられない、和式トイレにしゃがめないなど、運動不足が原因で筋肉・関節・骨などの発達に問題があると思われる子どもが増えたことに対応するのが狙いです。また運動不足だけでなく、野球やサッカーなど過度に特定のスポーツばかりしてきたことなどに起因する障害なども調べることになっています。

## 【関連事業】

- ◆7月7日（火）「ヘルスアップサポートセミナー開催」：リンクモア平安閣 県内530名参加  
子供たちの身長と体重の成長曲線の重要性について理解を深め活用できるようにし、それを考慮した健康管理及び栄養管理を行うための基礎的な指導の充実を図る研修会が実施されました。  
研修会では、「なぜ、身長・体重成長曲線に基づく児童生徒の健康管理が必要なのか」や成長曲線の捉え方、分類の仕方等を確認し、適正な成長及び病気が原因である肥満ややせの早期発見と早期対応等について説明を受けました。また、そのためのパソコンプログラムによる身長・体重成長曲線の自動作成（基本データの入力）や自動検索（統計学的異常等①～⑩群）、自動判定された児童生徒への適切な対応等についても説明を受けました。

- ◆8月8日（月）「健康管理プログラム研修会」（下北地区）：青森県総合学校教育センター

子供たちの成長を考慮した適切な健康管理及び栄養管理を行うために、健康管理プログラムを活用するスキルを身に付け、児童生徒の発達の段階や校種間の連携を踏まえた実践的な指導の充実を図る研修会（パソコン操作の演習等）が実施されました。

演習では、学校（施設）内での連携、実施体制の整備と、家庭や地域とのつながりのあり方を検討し、より良い方策を考えたり、成長曲線を積極的に活用した事例（肥満対策、給食の栄養管理）及びソフトウェアの操作体験等から、自校に適した方法を考えたりしました。



「四肢の状態」に関しては、運動不足や経験不足等、疾病なしでの運動器不全も多いと予想されます。そのような子の場合、学校の教育活動で改善を図っていきとなっております。そのため、子供たちの健康のためにも、学級担任（休み時間や日常の観察）や体育・保健体育の先生等とも情報を共有できるような校内での体制整備の充実をお願い致します。